

2019年(平成31年)3月18日(月曜日)

ネオジムRの可能性を追求

レアメタル資源再生技術研究会

フランチャイズ展開へ

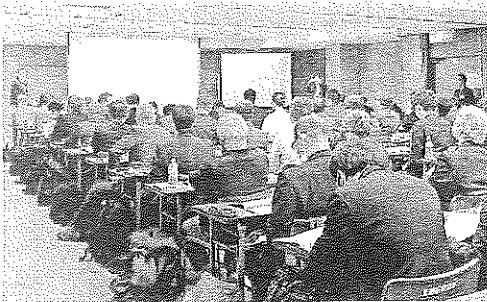
希少金属資源の産学官の関係者などをつくるレアメタル資源再生技術研究会(岐阜県各務原市、藤田豊久会長)は3月4日、第17回となる講演会・交流会を開催した。「EU発祥イキュラーエコノミー(CB)とEV化に向けたレアメタル・レアアースリサイクル」をテーマに、鈴木商會の菅原道紀氏が発表。同社は現在、中国最大手のリサイクル企業と企業連携し、グローバルでのネオジム回収スキームの展開を図っている。氏はこのスキーム構築の経緯や今後の展望などについて紹介。分散型リサイクルの確立を目指すとした。

(モバイル)リサイクルプラントのフランチャイズ展開を軸に、国内外の研究者や事業者など5人の発表者による講演を行った。最初の講演では企業連携によるアジア圏でのEWEイスト・レアアースリサイクルをテーマに、鈴木商會の菅原道紀氏が発表。同社は現在、中国最大手のリサイクル企業と企業連携し、グローバルでのネオジム回収スキームの展開を図っている。氏はこのスキーム構築の経緯や今後の展望などについて紹介。分散型リサイクルの確立を目指すとした。

「CBとネオジム磁石、レアアースの世界的なマテリアル・フロー・アナリシス(MFA)」「レアアース・モバイルリサイクルのためのグローバル都市鉱山マップ」について講演。氏はEUでCBの議論が盛り上がるなか、その検証の材料となる広範な観測・評価システム構築に向けた取り組みを紹介した。3番目に、東京大学の醍醐市朗氏が「レア

メタル・レアアースのマテリアルフロー分析(MFA)と都市鉱山からの回収促進」との演題で発表。ネオジムとジスプロシウム(MD)に基づき、リサイクルの実現に向けた制度設計や技術開発の方向性について述べた。続いて、同研究会の理事の今井佳昭氏が「EV化に向けたレアアースモバイル・リサイクルの事業化の提案」として、今年6月

に事業化へ向けた協議会を設立し、2020年にはレアアースモバイルリサイクルのフランチャイズ本部を立ち上げる見込みとした。最後に、研究会会長の藤田豊久氏が「CBとEV化も踏まえた研究会活動の展望」について発表。グローバルなEV化の進展と需要が高まる金属資源のリサイクルについて指摘しつつ、SDGsやCEの議論も紹介。それらを踏まえたうえで、研究会が都度の要請に応じて多くの鉱種・テーマを取り上げてきたことに言及し「今後必要とされるテーマについて議論していくので、ぜひ提案してほしい」とした。



講演会のようす

次に、オランダ・ライデン大学のアーノルド・トゥッカー氏が